

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者等の評価結果について（令和5年度期末）

（評価基準）

S：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を大幅に上回っている。

A：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を上回っている。

B：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準に概ね達している。

C：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を下回っている。

1 支援の内容及び効果等（1）

評価項目

「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

(1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

(2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

(3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

評価	左記の理由
B	・地域負担軽減に向け ICT を活用した地域運営が展開できるよう、デジタルツール活用のための連続講座を実施した。高齢化する地域の担い手への ICT 活用へのハードル緩和に繋がった。 ・地域がイベントを開催する際に、専門学校や企業等とのマッチング支援を行うことにより、地域と学校等との連携、また担い手獲得につながった。継続した連携が図られるよう引き続き支援していただきたい。 ・地域の自律度に差が表れていることから、各地域に必要な支援を分析し自律的運営の促進をより一層高めていただきたい。

2 支援の内容及び効果等（2）

評価項目

(1) 自由提案による地域支援の実施状況

(2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる支援状況（実績）及び効果等

(2-2) フォロー（バックアップ）体制等にかかる支援状況（実績）及び効果等

(3) 区のマネジメントに対応した取組にかかる支援状況（実績）及び効果等

評価	左記の理由
B	・まちセン通信の発行や facebook、公式 LINE アカウントなど受託者の情報発信ツールを活用し、積極的に情報を発信することにより、日頃地域活動に関わりの薄い若い世代へのアプローチを行うことができた。 ・アドバイザー、支援員による支援体制を整え、本部や他区を受託しているまちセンと情報交換することで、スケールメリットを生かした効果的な支援ができた。 ・支援員を地域担当制にし、積極的に地域に出向き、まちづくりセンターが有するファシリテート能力などを活用し、地域との信頼関係構築に努める姿勢は評価できる。

3 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）の状況及び効果等

評価項目

区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）にかかる支援の状況及び効果等

評価	左記の理由
B	・地区防災計画の改定について、希望地域（4地域）を対象に、大学教授へ協力を依頼し支援することにより、最新の専門知識も取り入れた改定に繋がった。 ・淀川区では転出入者が多いことから、来庁者の多い3月中旬から4月中旬及び、夏まつりの時期に合わせ6月下旬から8月上旬に各地域の広報の展示会を実施し、地域の取組に興味を持ってもらう機会づくりができた。

4 取組効果の評価（アウトカムに対する評価）

評価項目

(1) アンケート調査

(2) 自律的運営に向けた地域活動協議会の取組

「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

(3) その他の効果のあった内容

評価	左記の理由
B	・「地域活動協議会が、地域の実情やニーズに即した支援が実施されていると思う割合」は95.4%と、昨年の86.7%から大幅に上昇した。 ・自律的運営に向けた地域活動協議会の取組については、基本点が100点の地域は18地域中16地域、発展も含めた総合点でも18地域すべてで80点以上となっており、年々着実に上昇している。

5 総合評価【全体】

評価	左記の理由
B	・若い世代や転入者などが地域活動に関心をもってもらえるようSNSを活用した広報等の支援など引き続きの取り組みを期待する。 ・地区防災計画の改定に向けた支援について、全地域での実施をめざし、引き続き取り組まれない。 ・企業、学校、NPO等と地域活動協議会の連携を支援し、活動の担い手のすそ野が広がるような具体的な取り組みを検討されたい。 ・日頃より地域ニーズの把握にアンテナをはるにより、各地域が求めている支援を洗い出し、その解決策の提案をより一層きめ細かく進めていきたい。